

3 米

(1) 国際的な米需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

- ・ベトナム、タイ等で下方修正され、前月から下方修正された。

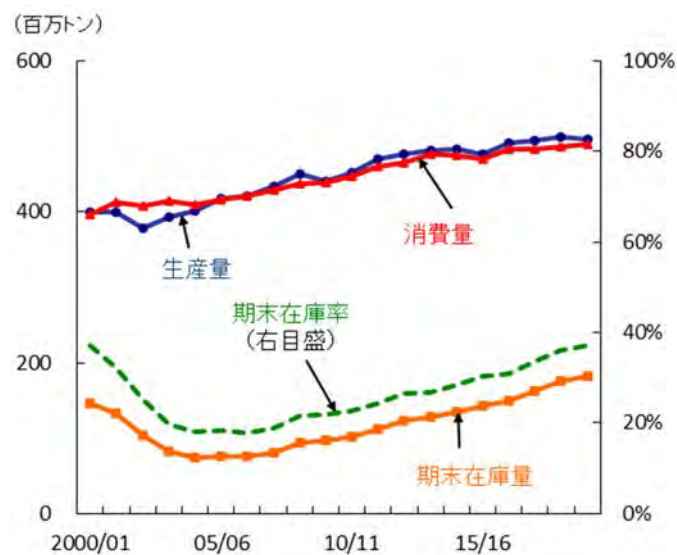
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

- ・タイ等で下方修正され、前月から下方修正された。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

- ・ベトナム等で国内供給確保のため輸出規制が導入されたことによる下方修正から、先月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2020.4.9）をもとに農林水産省にて作成

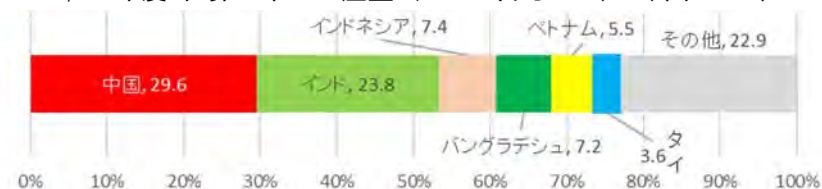
◎世界の米需給

(単位:百万精米トン)

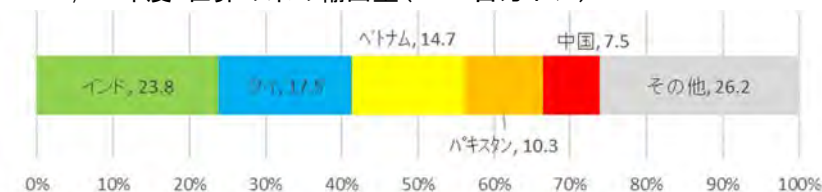
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	494.9	499.1	496.1	▲ 3.2	▲ 0.6
消費量	482.3	485.9	490.2	▲ 2.1	0.9
輸出量	47.3	43.7	42.2	▲ 2.1	▲ 3.5
輸入量	47.0	43.6	41.2	▲ 0.8	▲ 5.4
期末在庫量	162.5	175.7	181.6	▲ 0.7	3.4
期末在庫率	33.7%	36.2%	37.0%	0.0	0.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 April 2020)

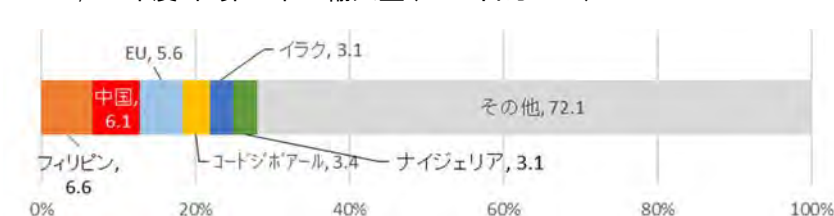
○ 2019/20 年度 世界の米の生産量 (496.1 百万トン) (単位：%)



○ 2019/20 年度 世界の米の輸出量 (42.2 百万トン)



○ 2019/20 年度 世界の米の輸入量 (41.2 百万トン)



(2) 国別の米の需給動向

< 米国 >

【生産動向】2019年12月上旬までに、収穫は全米で終了した。

USDAによれば、生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比17.6%減の5.9百万トン
の見込み。このうち、中・短粒種の生産量は全体の約3割を占める。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は、中・短粒種の輸出の減少はあるものの、
長粒種の輸出が伸びていることから、対前年度5.7%増の3.1百万トンの見込み。輸入量は、
前月予測からわずかに下方修正され、対前年度10.9%増の1.0百万トンの見込み。

< ベトナム >

【生育・生産動向】USDAによれば、2020年に収穫される2019/20年度
の生産量は、乾燥によるメコン川の水位低下及び海水進入により、前月予測から0.9百万トン
下方修正され、対前年度比0.1%増の27.4百万トンの見込み。

なお、ベトナム気象局によれば、中部と南部では局地的な降雨や雷雨があるが、乾燥状態
は4月後半まで続く見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測から0.7百万ト
ン下方修正され、対前年度比4.3%減の6.3百万トンの見込み。

なお、2020年1月～3月の輸出は、数量では152万トンと対前年同期比(141万トン)で
8.9%増加、金額では700.8百万USドルと対前年同期比(610百万USドル)で15.5%増加し
ている。その内訳(数量)は、フィリピン向けが39.2%を占める。以下マレーシア、中国向
けとなっている。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、各国での備蓄行動が活発化し、
米の需要が急増したため、精米(碎米5%)の価格は、平均430ドル/トンで2月時より42ド
ル/トンと、約10%の急激な値上がりを見せている。

ベトナム政府は、2020年4月に40万トンの輸出枠を設定した。IGCによれば4月22日には5月分
から10万トン前倒しし、50万トンへ引き上げを決定した。その後、ベトナム政府情報サ
イトに、首相が4月28日、5月以降規制の解除を了承したと掲載された。

米—米国

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米の米生産に占める生産シェアは約2割

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予 測 値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	5.7	7.1	5.9	-	▲ 17.6
消 費 量	4.3	4.6	4.2	-	▲ 7.7
輸 出 量	2.8	3.0	3.1	-	5.7
輸 入 量	0.9	0.9	1.0	▲ 0.0	10.9
期末在庫量	0.9	1.4	0.9	▲ 0.0	▲ 33.8
期末在庫率	13.2%	18.8%	12.8%	▲ 0.1	▲ 6.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	0.96	1.18	1.00	-	▲ 15.3
単収(もみt/ha)	8.41	8.62	8.38	-	▲ 2.8

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 April 2020)

米—ベトナム

北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予 測 値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	27.7	27.3	27.4 (28.8)	▲ 0.9	0.1
消 費 量	21.5	21.2	21.5 (22.6)	-	1.4
輸 出 量	6.6	6.6	6.3 (6.8)	▲ 0.7	▲ 4.3
輸 入 量	0.5	0.5	0.4 (0.4)	-	▲ 20.0
期末在庫量	1.0	1.1	1.1 (3.2)	▲ 0.3	▲ 2.7
期末在庫率	3.7%	4.0%	3.8% (10.9%)	▲ 0.8	▲ 0.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.65	7.54	7.51 (7.57)	▲ 0.16	▲ 0.4
単収(もみt/ha)	5.79	5.80	5.83 (3.81)	▲ 0.08	0.5

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 April 2020)

IGC「Grain Market Report (26 March 2020)」(単収は精米t/ha)

< 中国 >

【生育・生産動向】2020/21 年度産の播種が各地で開始された。4 月上旬時点で、二期作早稲米は華中地域の江西、湖南等では、播種と育苗期に入っており、華南地域の福建、広東省等の一部では移植期に入っている。一期作米は、雲南等で播種が開始された

【貿易情報・その他】USDA によれば、2019/20 年度の輸出量は、対前年度比 15.5%増の 3.2 百万トン、輸入量は対前年度比 20.0%減の 2.4 百万トンであり、2009/10 年度以来、10 年ぶりに純輸出国となる見込み。今のところ輸出規制は実施していない。

中国農業農村部の「農産品供需形勢分析月報」（2 月）によれば、2 月の早期インディカ、晩期インディカ、一期作ジャポニカ米の卸売価格(精米)は、それぞれ 3,800 元/トン(1 月は 3,680 元/トン)、4,120 元/トン(同 4,120 元/トン)、4,160 元/トン(同 3,680 元/トン)。価格は、新型コロナウイルスの予防の影響で、米の家庭内消費が増加するため早期インディカ米、ジャポニカ米が上昇。

< タイ >

【生育・生産動向】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、冬期の乾燥によりタイ北部の貯水池の水量が史上最低に近い水準となり、乾季米向けの灌漑用水が制限されたことから、前月予測から0.5百万トン下方修正され対前年度比11.5%減の18.0百万トンの見込み。収穫面積は対前年度比8.0%減少、単収は対前年度比3.9%減少。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2019/20 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 0.8%減の 7.5 百万トンの見込み。これは過去 7 年間で最も低い水準。

2020 年 1～2 月のタイ米の輸出量は前年同期比で 42.2%の減少の 94.7 万トンで、輸出額も 35%と大幅に減少し 175 億バーツとなった。

しかしながら、現地情報によれば、3 月末から 4 月にかけて、ベトナムの輸出停止とその後の輸出枠設定、カンボジアの輸出禁止等を受け、タイ産米への需要が大幅に増加。

タイの乾季米の減産見通しに加え、ベトナム等の輸出規制を受けて、タイ産米価格(長粒種 100%2 等)は 3 月 9 日の 481 ドル/トンから 4 月 6 日には 582 ドル/トンまで上昇した。なお、タイ政府は輸出規制を行わない旨公表している。

米ー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは 3 割程度

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	148.9	148.5	146.7 (146.7)	-	▲ 1.2	
消費量	142.5	142.7	142.9 (143.3)	-	0.1	
輸出量	1.4	2.8	3.2 (3.2)	-	15.5	
輸入量	5.5	3.0	2.4 (2.3)	-	▲ 20.0	
期末在庫量	109.0	115.0	118.0 (113.7)	-	2.6	
期末在庫率	75.8%	79.0%	80.8% (77.6%)	-	1.7	

(参考)

収穫面積(百万ha)	30.75	30.19	29.69 (29.69)	-	▲ 1.7
単収(もみt/ha)	6.92	7.03	7.06 (4.94)	-	0.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(9 April 2020)

IGC 「Grain Market Report (26 March 2020)」 (単収は精米t/ha)

米ータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	20.6	20.3	18.0 (18.3)	▲ 0.5	▲ 11.5	
消費量	11.0	11.5	11.5 (11.4)	▲ 0.2	-	
輸出量	11.1	7.6	7.5 (8.0)	-	▲ 0.8	
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.3)	-	-	
期末在庫量	3.0	4.5	3.8 (3.7)	-	▲ 16.5	
期末在庫率	13.6%	23.8%	19.9% (19.2%)	0.2	▲ 3.9	

(参考)

収穫面積(百万ha)	10.76	10.83	9.96 (10.00)	▲ 0.04	▲ 8.0
単収(もみt/ha)	2.90	2.85	2.74 (1.83)	▲ 0.06	▲ 3.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(9 April 2020)

IGC 「Grain Market Report (26 March 2020)」 (単収は精米t/ha)

<インド>

【生育・生産動向】現在、インドではラビ米が栄養生長期を迎えていると見られる。インド農業省によると、1月31日時点でのラビ米の作付けは、2.9百万ヘクタールに達しており、前年同期の2.5百万ヘクタールを上回っている。

6月のモンスーンの到来を待って、2020/21年度のカリフ米の作付けが開始される。

USDAによれば、2019/20年度の生産量予測は、前月予測から変更はなく、対前年度比1.3%増の118.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、0.3百万トン下方修正され、対前年度比2.1%減の10.2百万トンとなったものの、6年連続で世界第1位の輸出国となる見込み。新型コロナウイルス対策のため、政府が3月25日以降、国民に移動制限を課し労働力不足となったことから船積み遅れも発生したが、輸出規制は実施していない。

インド食料公社によれば、前年度が豊作となったことから、3月1日時点の政府備蓄量は30.9百万トンと4月1日時点の備蓄必要量（13.6百万トン）を大きく上回っている。

このため、インド政府は、3月25日からの新型コロナウイルス対策のための移動制限に対し、貧困層の食料安全の保障及び困窮する小規模農家の収入を補助するために、3か月間の無料の食料配給（一人当たり穀物5キログラムと一世帯あたり豆類1キログラム）を行い、一回目の現金支給（86.9百万人を対象）を4月初旬に実施することを決定した。

また、インド政府は備蓄米から新型コロナウイルス対策用の消毒用エタノールの生産を行う予定。

米ーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ（小麦）の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	112.8	116.5	118.0 (117.5)	-	1.3	
消費量	98.7	99.2	102.3 (102.7)	0.3	3.2	
輸出量	12.0	10.4	10.2 (10.3)	▲ 0.3	▲ 2.1	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	22.6	29.5	35.0 (33.1)	-	18.6	
期末在庫率	20.4%	26.9%	31.1% (29.3%)	-	4.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	43.77	43.80	44.00 (43.50)	-	0.5	
単収(もみt/ha)	3.86	3.99	4.02 (2.70)	-	0.8	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(9 April 2020)

IGC「Grain Market Report (26 March 2020)」(単収は精米t/ha)

II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2019/20 年度

生産量

前年度比



前月比



・アルゼンチン、ブラジル等で下方修正され、前月から下方修正された。

消費量

前年度比



前月比



・ブラジル等で上方修正も、アルゼンチン等で下方修正され、前月から下方修正された。

輸出量

前年度比



前月比



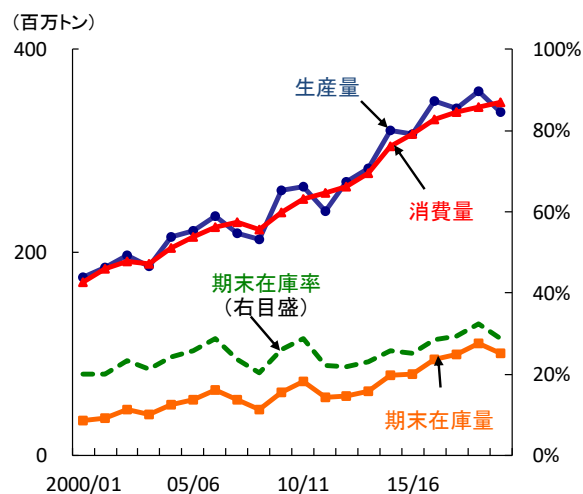
・ブラジルで上方修正も、米国、カナダ等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量

前年度比



前月比



資料：USDA「FPS&D」（2020.4.9）をもとに農林水産省で作成。

◎世界の大豆需給

(単位:百万トン)

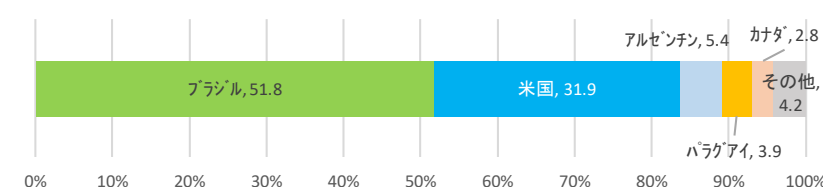
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	342.1	358.7	338.1	▲ 3.7	▲ 5.7
消 費 量	338.0	343.2	348.4	▲ 1.7	1.5
うち搾油用	294.6	297.9	302.8	▲ 0.6	1.7
輸 出 量	153.1	148.3	151.5	▲ 0.4	2.2
輸 入 量	153.2	144.6	151.5	0.7	4.7
期末在庫量	99.0	110.8	100.5	▲ 2.0	▲ 9.3
期末在庫率	29.3%	32.3%	28.8%	▲ 0.4	▲ 3.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（9 April 2020）

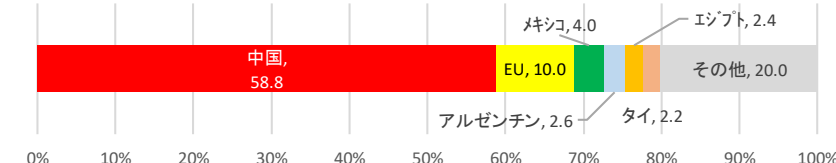
○ 2019/20 年度の世界の大豆の生産量 (338.1 百万トン) (単位：%)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸出量 (151.5 百万トン)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸入量 (151.5 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

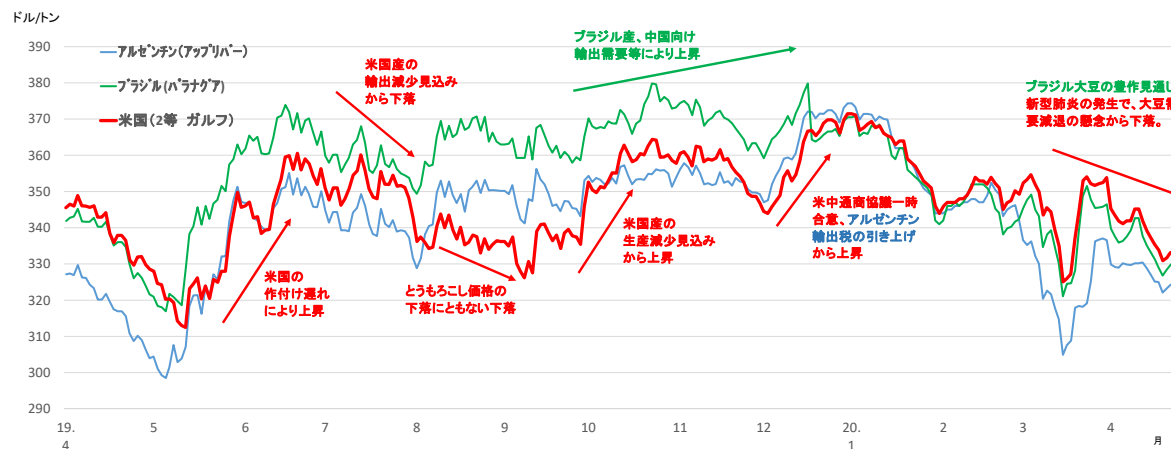
【生育・生産状況】3月末に米国農務省（USDA）から公表された作付意向面積調査によれば、2020/21年度の作付面積は33.8百万ヘクタールと降雨過多の影響で面積が減少した前年度に比べ9.7%増の見込み。4月19日現在で作付け進捗率は2%と過去5年平均、前年同期（ともに1%）と比べ進んでいる。

【需要動向】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、大豆粕輸出の増加とエタノール生産の減少に伴う飼料向けの副産物DDGsの生産減を代替する形で国内の大豆粕需要が増加したことから搾油用需要が上方修正されたものの、その他の需要がそれ以上に下方修正されたことから、前月予測から0.1百万トン下方修正され、60.6百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2019/20年度の輸出量は、ブラジル産との激しい競争から前月予測から1.4百万トン下方修正され、48.3百万トンの見込み。

輸出検証高（2020年1月2日～4月9日）は、10.8百万トンである。（下表参照）

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

大豆－米国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	120.1	120.5	96.8	-	▲ 19.6
消費量	58.9	60.5	60.6	▲ 0.1	0.2
うち搾油用	55.9	56.9	57.8	0.5	1.6
輸 出 量	58.1	47.6	48.3	▲ 1.4	1.6
輸 入 量	0.6	0.4	0.4	-	7.9
期末在庫量	11.9	24.7	13.1	1.5	▲ 47.2
期末在庫率	10.2%	22.9%	12.0%	1.5	▲ 10.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	36.24	35.45	30.36	-	▲ 14.4
単収(t/ha)	3.31	3.40	3.19	-	▲ 6.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 April 2020)

米国の大豆輸出先国別輸出量（輸出検証高）(万トン)

	国名	輸出検証高	
		2020年累計	3月
1	中国	296.9	14.5
2	メキシコ	131.0	41.5
3	エジプト	127.1	64.5
4	日本	74.2	18.1
	その他	522.0	103.4
	計	1,077.0	223.9

注1:3月の輸出検証高は、3月12、19、26日及び4月2、9日の合計

注2:累積輸出検証高は、2020年1月2日～4月9日の合計

出典:USDA Federal Grain Inspection Service

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、生育期を通じて降雨の少なかったリオグランデスル州では単収が過去5年平均に比べ28%減少したことから、前月予測から1.5百万トン下方修正されたものの、主産地の中西部のマトグロッソ州、南部のパラナ州で生育期に天候に恵まれ、作柄は良好で、依然として史上最高の124.5百万トンの見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(Conab)月例報告(2020.4.9)によれば、2019/20年度の実産量は、前年度比6.1%増の122.1百万トンの見込み。

USDAによれば、南部のパラナ州の収穫進捗率は96%(4月6日)、リオグランデスル州は84%(4月16日)となっている。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、搾油用需要の増加から前月予測から0.5百万トン上方修正され、46.9百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、3月の記録的な輸出増加により前月予測から1.5百万トン上方修正され、史上最高の78.5百万トンの見込み。世界の大豆輸出量の約半分を占め、世界第1位の輸出国となる見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2020年1～3月の累計輸出量は17.9百万トンで、前年同期比14%増となっている。内訳は、1位が中国で13.3百万トンと全体の74%を占めている。

大豆ーブラジル

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	122.0	117.0	124.5 (123.5)	▲ 1.5	6.4
消 費 量	46.5	44.8	46.9 (…)	0.5	4.7
うち搾油用	44.2	42.5	44.3 (…)	0.5	4.2
輸 出 量	76.1	74.6	78.5 (…)	1.5	5.2
輸 入 量	0.2	0.1	0.2 (…)	-	7.1
期末在庫量	32.7	30.5	29.7 (…)	▲ 3.5	▲ 2.5
期末在庫率	26.7%	25.5%	23.7% (…)	▲ 3.2	▲ 1.8

(参考)
 収穫面積(百万ha) 35.15 35.90 36.90 (37.50)
 単収(t/ha) 3.47 3.26 3.37 (3.29) ▲ 0.04
 資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「World Agricultural Production」(9 April 2020)
 OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(27 March 2020)

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2019/20年度の大豆の収穫は2月以降収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培。

2019/20年度	2019年												2020年								
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
夏とうもろこし																					
冬とうもろこし																					
大豆																					

資料: Conab穀物レポート(2020.4.9)

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、北部の洪水及び2月中旬から3月中旬にかけての主産地での高温、乾燥の影響から収穫面積、単収がともに下方修正されたことから2019/20年度の生産量は、前月予測から2.0百万トン下方修正され、52.0百万トンの見込み。

一方、「ブエノスアイレス穀物取引所週報」(2020.4.23)によれば、収穫の進捗率は56.4%で生産量は49.5百万トンの見込み。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、生産量の減少に伴い前月予測から2.0百万トン下方修正され、48.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は、前月予測からの変更はなく、8.2百万トンの見込み。

アルゼンチンは、バイオディーゼル用大豆の搾油を行うため、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

フェルナンデス新政権は、財政赤字の補填等のため、2019年12月から2020年3月にかけて、2段階で、大豆、大豆油、大豆粕の輸出税を約25%から30%、さらに最大33%へ引き上げた。なお、生産規模ごとに税率が20~33%と細分化され、年間1,000トンを超える生産者は33%課税されることとなった。

大豆－アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	37.8	55.3	52.0 (52.0)	▲ 2.0	▲ 6.0	
消 費 量	43.6	47.5	48.7 (…)	▲ 2.0	2.6	
うち搾油用	36.9	40.6	41.6 (…)	▲ 2.0	2.5	
輸 出 量	2.1	9.1	8.2 (…)	–	▲ 9.9	
輸 入 量	4.7	6.4	3.9 (…)	–	▲ 39.2	
期末在庫量	23.7	28.9	27.9 (…)	–	▲ 3.5	
期末在庫率	51.9%	51.1%	49.0% (…)	0.02	▲ 2.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	16.30	16.60	16.80 (16.60)	▲ 0.20	1.2	
単収(t/ha)	2.32	3.33	3.10 (3.13)	▲ 0.08	▲ 6.9	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(9 April 2020)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(27 March 2020)

写真 北部サンタフェ州の大豆収穫の様子

(4月1日撮影)



< 中国 >

【生産・生育状況】前年 12 月 6 日に公表された中国国家统计局のデータによれば、2019/20 年度の生産量は、前年度比 13.3%増となり、史上最高の 18.1 百万トンの見込み。なお、2020/21 年度の大豆の播種は 4 月下旬から主要産地で開始される。

【需給動向】USDA によれば、消費量は、前年の A S F の甚大な影響からの回復の初期段階を迎え、中国国内における搾油用消費量がわずかに回復し、86.0 百万トン、期末在庫量は、22.7 百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、輸入量はブラジルからの旺盛な輸入を反映し前月から 1.0 百万トン上方修正され、89.0 百万トンの見込み。

中国財政部は、2 月 14 日に、米中通商協議一次合意に伴い、米国産大豆の追加関税 30%のうち、2019 年 9 月追加分の 5%分を半減させ、追加関税を 27.5%まで引き下げた。さらに、財政部は、2 月 18 日、1 年間の期限付きで、輸入業者に対して、米国産大豆を始め豚肉、牛肉等の米国産品に関し、追加関税の免除手続きを公表した。

中国の貿易統計によれば、2020 年 1～2 月の輸入量は 13.5 百万トンと、前年同期比で 14%増。内訳は、米国産 6.1 百万トン（45%）、ブラジル産 5.1 百万トン（38%）である。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2 月号」（2020.3.17）によると、新型コロナウイルス肺炎の流行を予防・制御するため、生産地の交通規制で消費地への輸送が制限され、供給が厳しくなったことから、2 月の国内流通価格は上昇した。

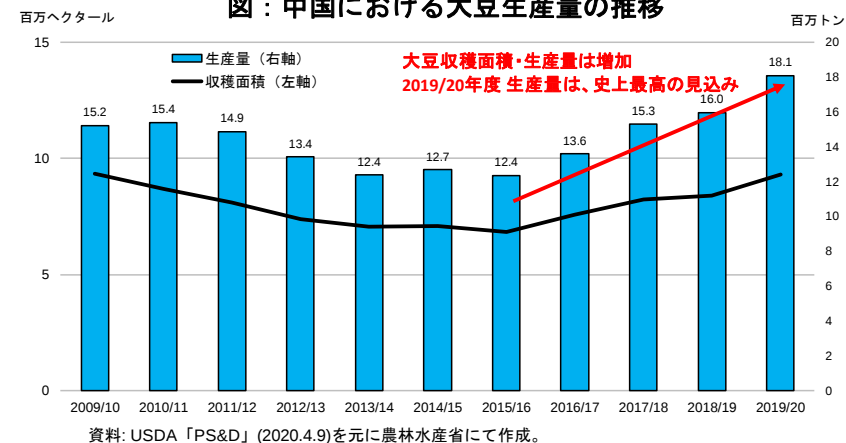
大豆－中国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	15.3	16.0	18.1 (15.7)	-	13.3
消 費 量	106.3	102.0	103.7 (…)	-	1.7
うち搾油用	90.0	85.0	86.0 (…)	-	1.2
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (…)	-	8.3
輸 入 量	94.1	82.5	89.0 (…)	1.0	7.8
期末在庫量	23.1	19.5	22.7 (…)	1.0	16.8
期末在庫率	21.7%	19.1%	21.9% (…)	1.0	2.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.25	8.41	9.30 (8.42)	-	10.6
単収(t/ha)	1.85	1.90	1.95 (1.87)	-	2.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 April 2020)
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」(27 March 2020)

図：中国における大豆生産量の推移



< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2020.4.22)によれば、2019/20 年度の生産量は、対前年度比 18.5%減の 6.0 百万トンの見込み。生育期に天候に恵まれず、収穫面積が減少した。さらに、特にカナダ西部で収穫時に悪天候となり、収穫ロスが発生した。

これから作付けされる 2020/21 年度については、価格の低迷により、作付面積が、前年度の 2.31 百万ヘクタールから 2.23 百万ヘクタールに減少するものの、単収が過去 5 年平均の 2.95 トン/ヘクタールに回復すれば、生産量は 6.6 百万トンと前年度より増加すると見込んでいる。

【需給状況】AAFC によれば、2019/20 年度の搾油用消費量は、なたねに搾油需要が一部シフトしているため、前年度(2.1 百万トン)を下回る 1.8 百万トンの見込みである。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2019/20 年度の輸出量は、中国向け輸出の米国産との競争により需要が下がったことから前月予測から 0.4 百万トン下方修正され、4.3 百万トンの見込み。

大豆－カナダ

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	7.7	7.3	6.0 (6.0)	－	▲ 17.4
消 費 量	2.9	3.0	2.5 (2.5)	▲ 0.2	▲ 16.2
うち搾油用	1.9	2.1	1.8 (1.8)	▲ 0.1	▲ 13.3
輸 出 量	4.9	5.3	4.3 (4.3)	▲ 0.4	▲ 18.2
輸 入 量	0.5	1.2	0.5 (0.4)	▲ 0.4	▲ 57.3
期末在庫量	0.6	0.8	0.6 (0.3)	0.2	▲ 34.6
期末在庫率	8.1%	10.2%	8.1% (4.4%)	3.4	▲ 2.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.94	2.54	2.30 (2.27)	－	▲ 9.4
単収(t/ha)	2.63	2.86	2.61 (2.66)	－	▲ 8.7

資料：USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(9 April 2020)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(22 April 2020)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2019/20年度)

	小麦	とうもろこし	米	大豆
米国	19年6月～20年5月	19年9月～20年8月	19年8月～20年7月	19年9月～20年8月
カナダ	19年8月～20年7月			19年8月～20年7月
豪州	19年10月～20年9月		20年3月～21年2月	
EU	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月		
中国	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月
ロシア	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月		19年9月～20年8月
ブラジル		20年3月～21年2月	20年4月～21年3月	19年10月～20年9月
アルゼンチン	19年12月～20年11月	20年3月～21年2月		19年10月～20年9月
タイ			20年1月～12月	
インド	19年4月～20年3月		19年10月～20年9月	
ベトナム			20年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2019/20年度は、米国の小麦では2019年6月～2020年5月、ブラジルのとうもろこしでは2020年3月～2021年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が 2020 年 4 月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下のとおりです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

英国については、2020年1月31日付けでEUを離脱しました。英国の小麦に関する情報についてはEUの小麦のコーナーで取り扱います。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL：03-6744-2368（直通）
------------	---